

(消化器内科部長) 深見 隆則 (ふかみ たかのり)

2007年3月新しい内視鏡システムが導入され、最新の内視鏡検査、治療がより開始されました。微細な病変の描出により、内視鏡による確実な診断、治療に高度な質的レベルの飛躍が期待できます。本院に導入された新しい内視鏡システムの概略を簡単に紹介させていただきます。

1 ハイビジョン(超高画質)システム。

微細な病変の描出が可能となり、小さな早期癌の発見が比較的簡単に可能となり、患者さんに優しい内視鏡による早期癌の治療が増加する事が期待されます。

2 狭帯域光観察(NBI)

NBI観察で粘膜表層の微細な血管構築や粘膜表面の微細構造が明瞭となります。

この血管構築の観察により、腫瘍、非腫瘍の鑑別が可能となります。すでにこのNBI観察は、咽頭、食道癌の早期発見、大腸の一般検査にまで応用されつつあり、今までの内視鏡診断より腫瘍の発見率が高い事が報告され、画期的検査法として世界で注目をあびています。

3 拡大内視鏡観察

胃及び大腸内視鏡に拡大観察が可能な内視鏡が導入されました。顕微鏡レベルまで拡大観察が可能であり、内視鏡で病理診断がある程度推察できるまで発展してきています。腫瘍、非腫瘍の鑑別、また悪性、良性腫瘍の鑑別、診断に期待が持たれています。

4 経鼻内視鏡観察

経鼻内視鏡検査が導入されました。経口内視鏡検査より咽頭反射がほとんどなく、内視鏡検査の苦痛もかなり軽減されます。経鼻内視鏡では、内視鏡治療はできませんが、生検等の病理検査は可能です。検診に適した検査と考えています。しばらくは人間ドッグの受診者の方で希望される方から始めていきます。

以上簡単に述べさせていただきました様に、画期的内視鏡システムを用いた内視鏡診療がはじまっています。システムを生かすのも人の力。患者さんのにとって優しい、又の質の高い診療が求められます。尚一層の努力と研鑽をしていきたいと思えます。

NBI画像

■大腸



通常画像 (拡大)

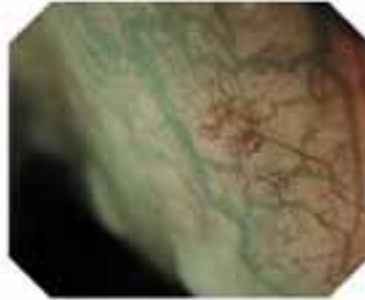


NBI画像 (拡大)

■食道



通常画像 (拡大)



NBI画像

■食道



通常画像



NBI画像



染色画像